

# 図画工作、美術

## 令和6年度 授業改善のポイント

- 1 児童生徒のこれまでの学習経験を確認し、各学年における指導事項や内容の取扱いと指導上の配慮事項を踏まえて、指導計画を作成する。
- 2 育成する資質・能力を明確にし、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら指導に生かす評価と記録に残す評価の場面を精選し、児童生徒の学習状況を把握する方法を工夫する。

### 「つくり、つくりかえ、つくる」自分の思いを広げる造形遊び

#### 【指導事例】「へ～んしん！ぶんし！」（小学校低学年：90分）

造形遊び…「A表現」（1）ア、（2）ア、〔共通事項〕（1）ア、イ

本時のねらい：新聞紙の特性を生かして、破ったり、折ったり、丸めたりするなど、手や体全体を働かせ、工夫して活動をつくり出ることができる。

**重要** 「A表現」は、次の二つの側面から児童の資質・能力を育成します。それぞれの造形的な創造活動の過程の違いに留意することが大切です。

#### <造形遊びをする>

- ・はじめから具体的な作品をつくることを目的としないが、結果的に作品になることもある。
- ・思い付くままに試みる自由さなどの遊びの特性を生かしたものである。

#### <絵や立体、工作に表す>

- ・およそのテーマや目的を基に作品をつくらうとすることから始まる。
- ・テーマや目的、用途や機能などに沿って自分の表現を追求していく。

事前

**ポイント1** 児童が材料と十分にに関わり、自分で目的を見つけて活動を発展させていくことができるよう、学校や地域の実態に応じた様々な材料を準備するとともに、広くて安全な場所を活動場所にし、児童一人一人が発想を広げることができる時間を確保します。

新聞紙で、どんなことができるかな？

破って穴をあけてみたい。

丸めてみようかな。

☆児童が発見した活動のキーワード（破る、丸める）などを掲示し、活動が思い付かず悩んでいる児童のヒントになるようにします。また、単に遊ばせることが目的ではなく、進んでつくる過程そのものを楽しむ意識をもたせながら活動に取り組ませます。

本時の授業

発想や構想、技能を連続させて、「つくり、つくりかえ、つくる」ためには「感覚や気持ち」と「活動すること」が切り離されないよう、教師の関わり方として児童の活動をよく見て、見守る、受け止める、認める、励ますことが大切です。

〇教師の関わり方（例）

- ・児童一人一人の発想や構想を、可能な限り受け止めます。
- ・児童一人一人の思いを受け止め、材料との関わりや友達と共に活動するなどの造形的な試みを見守り、励まします。
- ・新しい活動に向かうように、教師が共感的な言葉掛けをします。
- ・新しい試みをしようとする事自体を見守ったり励ましたりして、造形的な活動に向かうようにします。

見て。新聞紙の真ん中を破って、頭を入れたら、服のようになったよ。

かっこいいね。私はお団子みたいに新聞紙をいっぱい丸めたよ。丸めた新聞紙を広げたら、布みたいに柔らかいの。ほら、触ってみて。

本当だ。僕の新聞紙と違って、ふわふわしていて気持ちいいな。

大発見だね。柔らかくなった新聞紙で、どんなことができそうかな？

この服に合うマントにできそうだな。やってみよう。

**重要** 造形遊びをする活動を通して、「材料に働き掛けて捉えた形や色、自分のイメージなどを基に造形的な活動を発想する」「新たに造形的な活動を思い付いたり、つくり方を考えたりする」「材料や用具に触れたり使ったりする中で感じたことを生かしながらつくる」など、自分の思いを具体化するために必要な資質・能力を育成することができます。

評価

**ポイント2** 活動過程の姿に着目して評価するため、多様な方法を用いて、児童の学習状況を把握する必要があります。

- ・フィールドマップや座席表の活用（観察や対話、つくりつつある活動の様子を観察）
- ・ICTの活用
- ・ワークシートの活用
- ・ポートフォリオの活用 など



個のポートフォリオとして、タブレット端末で児童自身が写真や動画を撮影すると、児童の思考が反映されやすくなります。また、様々な段階で記録させておくことで、より学びの変容を捉えることができます。